



素材のチカラを  
未来のタカラに

# CSR報告書 2017

# 素材のチカラを 未来のタカラに

創業200年、会社設立100年に向けて。  
戸田工業は最先端の素材力で、新たな価値を創造し続けます。



## CONTENTS

戸田工業グループの経営理念とCSR方針	3
SDGsへの取り組み	4
戸田工業グループの事業内容と歴史	6
経営者ごあいさつ	8
特集① 塩ビ安定剤用ハイドロタルサイト事業	9
特集② フェライトICタグ事業	10
特集③ タイ現地法人「戸田工業アジア(タイ) Co., Ltd.」操業開始	12
投資家の皆様に向けて	14
1) コーポレート・ガバナンス	
2) 事業の概況	
3) 株主総会と決算事業報告会	
4) 今後の事業計画のポイント	
5) 戸田工業グループの製品と最終用途	
お客様、取引先の皆様に向けて	17
1) 製品品質の向上のために	
2) お客様からの問合せへの対応状況	
3) 小集団活動	
4) 現場を強くする人材の育成	
社会に向けて	19
1) 環境基本方針	
2) マネジメントシステムの導入状況	
3) 温暖化対策	
4) 環境格付認定	
5) グリーン調達活動、紛争鉱物に関して	
6) BCP/防災活動	
7) 社会や地域とのかかわり	
8) 生物多様性への取り組み	
9) コンプライアンス	
従業員に向けて	28
1) 働きやすさ	
2) 安全・衛生活動	
3) 健康増進に向けた取り組み	
4) クラブ活動	
5) 研修制度	
組織図	34
事業拠点	35

## 経営理念、経営方針、行動指針

戸田工業グループでは、2014年度に経営理念、経営方針、行動指針を刷新いたしました。役員・従業員一同、日々これらの理念等に立ち返り、各自の役割・業務にあたっております。

### ▶ 経営理念

私たちグループは、酸化鉄で培った微粒子合成技術を深化させながら、永遠に生々発展します。誠実・信頼を基盤とし創造力と製造力を結集させ、魅力ある独創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献します。

### ▶ 経営方針

- ・設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「もの作り企業」としての経営基盤を確立します。
- ・Only1技術を磨き、付加価値の高い製品とソリューションを提供し続けます。
- ・グローバルで必要不可欠な存在となり、グループの企業価値を向上させます。
- ・従業員と家族の幸福を求め、ステークホルダーから常に信頼される存在となります。

### ▶ 行動指針

- ・お客様のニーズにお応えする製品とソリューションをスピーディーに提供します。
- ・製・技・販・管、全社一丸となって熱心に仕事に打ち込みます。
- ・誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観を持って行動します。
- ・個々の品格を高め、誇りと希望と夢を持ち続けます。
- ・地域社会および地球環境との調和と共生に努めます。

## CSR方針

戸田工業グループは、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に行うとともに、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内の諸規程、規則を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ち、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持ちません。

## CSR4つの指針

### 投資家 の皆様に向けて

創造的な技術に裏付けされた質の高い成長による成果の蓄積・提供、透明で健全なコーポレート・ガバナンス体制および有効な内部統制の整備・運用により、投資家の皆様の理解と共感を得る活動に努めます。

### 社会 に向けて

コンプライアンス精神に則り反社会的勢力との関係を断ち、安全と地球環境への配慮を何物にも優先させ、地域社会と連携し国際社会との協調を図りながら、持てる文化資本をベースに、グローバルレベルの素晴らしい生活文化を作ります。

### お客様、取引先 の皆様に向けて

お客さまから見た価値観を共有し、独自に開発した技術力を武器とし、志を同じくする取引先業者と、よきパートナーシップで連携します。そして、誠心誠意、目標に向けて互恵の努力を続けます。

### 従業員 に向けて

従業員一人ひとりの独創性と多様性が、私たちの財産です。その能力の限らない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

# SDGs (持続可能な開発目標) への取り組み

## 経営層

企業の持続的発展には、トリプルボトムラインと呼ばれる経済/環境/社会の総合的発展が必要となります。戸田工業グループは、この概念を取り入れ、2015年9月の国連総会に2030年に向けた17の持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)が採択されました。戸田工業グループは、このステークホルダーの皆様とともにSDGs達成に貢献できるよう努めてまいります。

## 経営企画室、Global Fine Material事業本部

新興国を含むグローバルな事業展開を通じて貢献します。

- 1 貧困をなくそう**
- 2 飢餓をゼロに**
- 3 すべての人に健康と福祉を**
- 4 質の高い教育をみんなに**

## CSR・環境安全部、生産本部

環境保全、気候変動課題へ積極的に取り組みます。

- 13 気候変動に具体的な対策を**
- 14 海の豊かさを守ろう**
- 15 陸の豊かさも守ろう**



## 創造本部、生産本部

素材を通じてソリューションを提供し、持続可能な社会へ貢献します。

- 6 安全な水とトイレを世界中に**
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう**
- 11 住み続けられるまちづくりを**
- 12 つくる責任つかう責任**

## 経営管理本部

人権を尊重し、雇用の場を提供します。

- 5 ジェンダー平等を実現しよう**
- 8 働きがいも経済成長も**
- 10 人や国の不平等をなくそう**
- 16 平和と公正をすべての人に**

ステークホルダーの皆様とともに

- 17 パートナーシップで目標を達成しよう**

# 戸田工業グループの事業内容

戸田工業グループは、酸化鉄の湿式合成から始まるナノテクノロジーをベースに事業展開しています。酸化鉄は鉄と酸素を基本要素とした結晶構造によって、色や硬さ、磁性などの物理・化学特性が異なります。

戸田工業の湿式合成技術の特徴は、酸化鉄を始めとする各種粒子の特性を制御し、求められる機能や特性に合わせて、各種素材を自在に作り分けることができます。湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーの蓄積は、戸田工業のコアコンピタンスとなっています。

酸化鉄を核とした専門知識・技術・ノウハウの集積は、お客様の抱える課題に新しい角度から光を当て、素材の視点からの解決法・ソリューションを提供しています。

近年では、フェライトICタグやスマートフォン向けの非接触充電用フェライトシートなど、素材を熟知した戸田工業だからこそできる電子部材の開発・製造を進め、高度化する顧客のニーズに応えています。また、湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーにさらに磨きをかけ、各種触媒や磁石材料、機能性顔料の開発・製造にも注力しております。

これからも、戸田工業グループ一丸となり、素材を通じて、情報・環境・エネルギーを支えるソリューションを提供してまいります。

<戸田工業グループ紹介ビデオ>



左記のQRコードからアクセスできます。  
4分30秒のビデオとなっています。ぜひ、ご覧ください。



# 戸田工業グループの歴史

1907年 広島市安佐北区に工場移転 (広島工場)

1933年 広島市西区横川新町に戸田工業(株)設立

1953年 東京営業所、大阪営業所を新設

1959年 山口県山陽小野田市に小野田工場を新設

1971年 広島市西区横川新町に本社移転

1936年 広島市中区舟入南に本社・工場移転

1953年 硫酸鉄を焼成して酸化鉄を製造する過程で、亜硫酸ガスが発生、大きな問題となる

1965年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服

1975年 舟入工場を研究・開発専用事業所とする。

1910 創業 1823年

1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970

1823年 (文政6年) 岡山県井原市にてベンガラ製造を開始

人類最古の顔料、ベンガラの工業的製造から始まる

1953年 京都大学との共同研究を開始。ベンガラ製造が伝統的な“技能”から“技術”として位置づけられる

1953年 広島工場にフェライト材料の生産工場を新設

1969年 小野田工場にオーディオ・ビデオテープ用磁性粉末生産設備を新設

1973年 小野田工場に湿式法による着色顔料工場新設

オーディオ・ビデオテープ用磁性粉末のシェア世界No.1!

鉄鋼製品の製造プロセスから副成する硫酸鉄や塩化鉄を原料として利用

産業廃棄物の削減、資源の有効利用に貢献

業界初! 酸化鉄の湿式合成法の開発

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウム製造設備を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設

トナー材料

コピー用紙

ハイドロタルサイト

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例 (ゴミ袋、緩衝材)

カーボン用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

パウダー

ペレット

建築の木材塗料  
紺染めの下地  
漆器  
番傘の着色  
陶磁器 (赤絵の釉薬) 等

1983年 東京証券取引所一部上場

1983年 広島市中区舟入南に創造センターを新設

1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設

1991年 大竹工場内に創造本部大竹を新設

海外進出がスタート!

1994年 「戸田工業ヨーロッパ GmbH」を設立

1997年 「戸田ビグメント(株)」設立

2000年 広島市中区舟入南に本社移転

2001年 「戸田マテリアル(株)」設立

2003年 中国浙江省に全額出資の「戸田磁石材料(浙江)有限公司」設立

2003年 大竹市に本社移転

2008年 「東京色材工業(株)」の株式を100%取得

2011年 日本政策投資銀行より環境格付を取得

2014年 広島市に本社移転

2015年 「BASF戸田/バッテリーマテリアルズ合同会社」設立

2016年 「戸田工業アジア(タイ) CO., Ltd」設立  
「戸田ファインテック(株)」の株式を100%取得

1980 1990 2000 2010

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウム製造設備を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設

トナー材料

コピー用紙

ハイドロタルサイト

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例 (ゴミ袋、緩衝材)

カーボン用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

## ごあいさつ



代表取締役社長

寶来 茂



代表取締役会長

久保田 正

戸田工業グループは、磁器の絵付けやベンガラ格子などで知られる酸化鉄着色顔料の製造会社として江戸時代末期に創業した化学素材メーカーです。創業200周年まであと6年、「継続」が企業の使命の第一であると肝に銘じて会社の経営にあたっております。

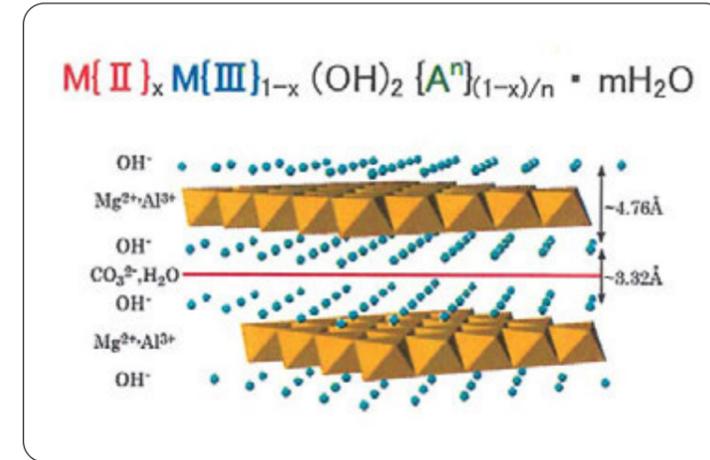
一方で、会社を取り巻く環境は刻々と変化し続けており、並々ならぬ努力なくして「継続」は成し得ないことを実感しております。目下、戸田工業グループ全体で、「Change is Chance, Change for Trust」の精神に則り、変化を恐れず前向きな改革・改善に取り組んでおります。

CSR活動については、全社を挙げて積極的に取り組んでおります。具体的には、CSR・環境安全部がCSR業務を統括し、社内の環境問題等の洗い出しおよび事業活動への反映に携わっております。特に環境問題は化学メーカーとして存続していくためには避けて通れない重要な課題と捉えており、取組みを強化しております。これらの取組み内容については、2015年度よりCSR報告書を刊行し（2016年度からは英語版も）、ホームページでも開示しておりますので、ぜひご覧くださいませ。

さて、外に目を向けますと、2015年9月に、国連総会でSustainable Development Goals (SDGs) という新たな持続開発目標が採択され、国連に加盟するすべての国が、エネルギー、気候変動、平和と公正など、人類が豊かに生き続けるための目標を達成すべく尽力することが求められることとなりました。戸田工業グループでは、これまでの企業活動における取組みを、SDGsの17の目標に即して再構築し、具体的な取組方針を定め、これを実行することにより、社会的な責任を果たしながら企業活動を継続していく所存です。

今後とも、ステークホルダーの皆様とともに生々発展できるよう邁進してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 特集① 塩ビ安定剤用ハイドロタルサイト事業



〈層状構造モデル図〉



〈ハイドロタルサイト〉



〈塩ビケーブル〉

戸田工業では、従来から、塩化ビニル安定剤や農業用ポリオレフィンフィルム保湿剤として、ハイドロタルサイトという添加剤を開発・製造してまいりました。ハイドロタルサイトの世界的需要は、塩化ビニル安定剤やオレフィン中和剤用途の増加とともに拡大しており、今後もアジア地域における著しい経済成長、および塩化ビニル安定剤の「非鉛化」の流れに伴い、さらなる成長が期待されています。

戸田工業でも、1999年以降、生産体制を逐次整えてきましたが、円高の影響等で収益の確保が難しくなり、やむなく工程の一部を停止させるなど、ここ数年は苦難の時代が続いておりました。

そんな中、このほど堺化学工業株式会社からの塩化ビニル安定剤用ハイドロタルサイトの受託生産について合意が成立し、両社で、コスト的にも品質的にも競争力のある新仕様のハイドロタルサイトの生産を開始することになりました。

戸田工業の小野田事業所と、堺化学工業様の堺事業所やベトナムのグループ会社で生産する塩化ビニル安定剤用ハイドロタルサイトの年間生産能力は、合計15,000トン規模となり、急成長している市場のニーズに応え得るものとなります。

2017年12月から、小野田事業所で、新仕様のハイドロタルサイトの本格生産を開始いたします。コスト競争力ある新製法の確立や販売チャネル活用といった「ビジネスパートナーとのアライアンスによるシナジー効果」を上げるよき前例とすべく、取り組んでまいります。



〈小野田事業所 生産工場の外観〉



## 特集③ タイ現地法人「戸田工業アジア(タイ) Co., Ltd.」操業開始

2017年8月3日、戸田工業グループでは初めての東南アジアのグループ会社として昨年設立した「戸田工業アジア(タイ) Co., Ltd.(以下「TKAT」)」が操業を開始しました。TKATはアユタヤ県ロジャナ工業団地に位置し、敷地面積は8300m<sup>2</sup>、延床面積は1400m<sup>2</sup>です。

TKATでは、モーターの磁石の材料となる磁性コンパウンドの製造・販売および着色顔料の輸入販売を行います。磁性コンパウンド事業において、従来、タイのお客様へは、中国、日本の戸田工業グループ製造拠点から供給していましたが、TKAT操業開始により現地生産によるタイムリーな供給が可能となります。

省エネ家電の需要は、経済発展が著しいASEAN地域を中心として世界的に拡大しています。磁性コンパウンドが利用されるモーターは、省エネ効率向上を実現するための必要な部材として採用が進んでいます。戸田工業グループでは、強みである自社開発した特徴ある磁性粉末をベースに、タイ、中国、日本のネットワークを活かし、お客様の期待に応えてまいります。

また、ASEAN地域では、建設資材や家具等に幅広く利用される着色顔料の需要も伸びていることから、TKATは戸田工業グループで生産した着色顔料の新たな販売拠点としての事業も行ってまいります。



〈TKAT開所式の様子〉

### 1. TKAT概要

会社名	戸田工業アジア(タイ) Co., Ltd. Toda Kogyo Asia (Thailand) Co., Ltd.
所在地	Rojana Industrial Park, 73 Moo 9 Tambol Thanu, Amphur U-Thai, Ayutthaya 13210 Thailand
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 高橋 正樹(戸田工業より出向中)
事業内容	磁性コンパウンド製造・販売および着色顔料輸入販売
資本金	144,700,000 タイバーツ
設立年月日	2016年4月18日
従業員数	17名 ※2017年8月3日現在

### 2. 工場外観、現地地図



### 3. 磁性コンパウンドとは

樹脂と磁性粉末を混ぜ合わせて複合化した成形材料です。戸田工業グループでは、「ハードフェライト」、「ソフトフェライト」等、幅広い製品ラインナップを取り揃えており、家電用モーターを中心として自動車用モーター、センサーなど多種産業の多種用途で使用されています。長年培ってきたノウハウにより、お客様に最適なコンパウンドにカスタマイズすることが可能です。

### 4. TKATの磁性コンパウンド事業スキーム



# 投資家の皆様に向けて

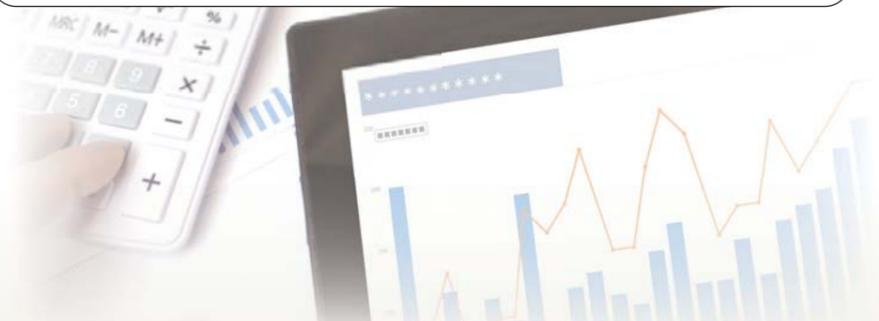
## 1) コーポレート・ガバナンス

戸田工業では、2名の社外取締役を含む「取締役会」と過半数の社外監査役を含む「監査役会」によるガバナンスの枠組みを基本とした経営統治形態としております。取締役会は重要な業務執行に関する意思決定機関であり、業務執行取締役に対する監督機関となっております。取締役会は、戸田工業グループの事業内容に精通し、戸田工業の強みである基礎技術開発の重要性を理解した取締役で構成されており、迅速かつ確かな経営判断が実施できる体制を確保しており、月一回の定例の取締役会だけでなく、必要に応じて臨時取締役会を開催し、業務執行状況の監督、基本事項および重要事項を付議し決定しております。さらに、取締役の職務執行を相互に監視・監督する役割は有効に機能していると考えております。また、独立性の高い社外監査役3名を含む監査役が監査を実施しており、経営の監視機能の客観性および中立性を十分に確保した監査体制を整えております。

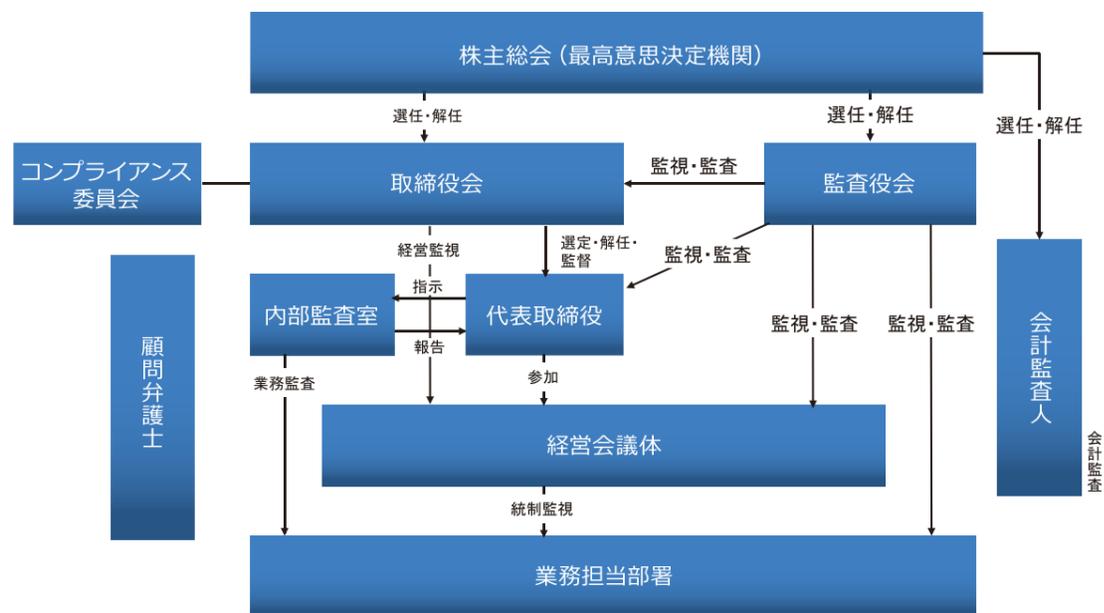
〈コーポレート・ガバナンス紹介ページ〉



詳細は、弊社ホームページをご覧ください。  
<http://www.todakogyo.co.jp/ir/governance.html>



〈コーポレート・ガバナンス体制 概要図〉



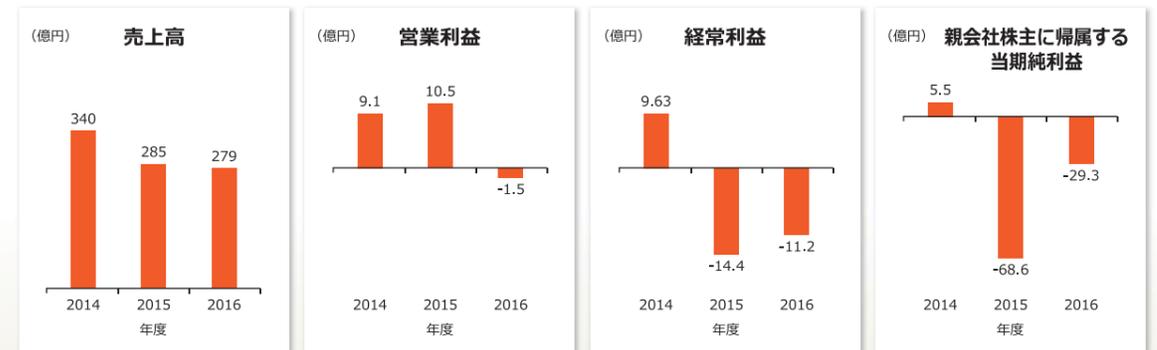
## 2) 事業の概況 (2016年4月1日～2017年3月31日)

戸田工業グループにおきましては、海外経済の減速から国内外の販売が低迷し、また為替が乱高下したこと、Toda America Incorporated、Toda Advanced Materials Inc.を連結子会社とした影響等を受け、売上高は27,889百万円（前期比2.2%減）となり、営業損失は151百万円（前期は営業利益1,051百万円）となりました。為替差損107百万円、持分法による投資損失694百万円等があり、経常損失は、1,116百万円（前期は経常損失1,440百万円）となりました。また、のれん償却額1,380百万円等があり、親会社株主に帰属する当期純損失は、2,926百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失6,865百万円）となりました。

連結子会社および持分法適用会社につきましては、2015年度から積極的に収益改善および縮小等を含めた活動を行っており、徐々に改善効果は現れております。

なお、北米におけるリチウムイオン電池用正極材料事業の再編に向けた活動は継続しており、複数の候補先と協議を行っております。

今後の見通しにつきましては、コスト削減ならびに原価分析による採算改善・生産性の改善に取り組み、高収益体質への転換を目指します。また、スマートフォン向け非接触充電用フェライトシートの事業拡大およびリチウムイオン電池材料事業の改善等を推進し、連結業績のV字回復を図る所存です。



## 3) 株主総会と決算事業報告会

2017年6月28日に戸田工業の第84期（2016年度）定時株主総会が開催されました。会場の広島駅前のホテルには、今期も大勢の株主の皆様にお越しいただきました。戸田工業としては、株主総会を株主の皆様との貴重なコミュニケーションの機会と位置付け、株主総会の議事がすべて終了した後には、毎回社長による経営近況報告会を開催し、リラックスした中でのやりとりを通じて株主の皆様へ戸田工業グループへのご理解を深めていただくよう努めております。

また、戸田工業では、投資家、アナリストや経済記者等を対象に、定期的に決算事業報告会を開催しています（2016年度の説明会を2017年6月1日に開催しました）。



〈株主総会の様子〉



〈決算事業報告会の様子〉

# お客様、取引先の皆様に向けて

## 1) 製品品質の向上のために

戸田工業グループでは、「継続的改善活動を展開し、顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」という品質方針を定め、以下の品質保証活動を推進しています。これらの品質保証活動を営業、開発、製造ラインから独立させ、より実効的に進めるため、2016年7月より、品質保証部を社長直轄といたしました。

品質保証部では品質保証委員会を主催し、戸田工業グループ各事業所の品質保証部門と情報を共有し、品質問題を全社で解決する体制を構築しております。戸田工業グループの製造部門に対する品質監査を行うほか、営業部門に届けられるお客様からの苦情・クレーム等に対する原因特定、再発防止策の立案・実施、検証および水平展開を現場目線で展開しています。

2016年度は、各職場で発生した不具合や災害事象を三現主義でロジカルに考える癖付けを目指し、現場での「なぜなぜ分析」学習会を始めました。2017年度は、この学習会をはじめ品質管理教育活動を拡充するために品質保証部の配下組織として「ものづくり推進室」を新設しました。戸田工業グループのものづくりを人づくりの観点から支援する体制で取り組みます。

### 品質保証活動の指針

1. ISO9001シリーズの要求事項の遵守を確認するとともに、品質保証システムのレベルアップを目的とした品質監査を実施しています。
2. 法規制およびその他の要求事項の遵守状況を確認しています。
3. 戸田工業グループの製品の品質向上のため、品質の分析、関係部門に対する改善指導および定期的な品質に関する検討会議（品質保証委員会）を行うことにより、総合的な品質改善を推進します。
4. 一人ひとりが能力を最大限に発揮し、現場力を高めるための人財育成を実施しています。

## 連結業績の向上

## 4) 今後の事業計画のポイント

スマホ向け非接触充電用フェライトシート・環境機能材料・塩ビ安定剤用ハイドロタルサイト事業強化

磁石材料・顔料の海外市場展開強化

北米 LIB 正極材料事業の再編

持分法投資損益の黒字化

継続的なコスト削減

## 5) 戸田工業グループの製品と最終用途

### 自動車

- ・電気自動車用 LIB 材料、冷却ポンプ用モーター用磁石材料、透明酸化鉄
- ・電子部品（インダクターやコンデンサ）、プレーキ材、防振・制振材料
- ・安全装置におけるモーターセンサー

#### 主な取り組み

- ・北米子会社2社 LIB正極材料事業の再編に向けた協議
- ・車両塗装向け透明酸化鉄の開発・販売

### 複写機 / プリンター

- ・トナー材、キャリア材
- ・磁石材料

#### 主な取り組み

- ・酸化鉄専門メーカーとして高い市場シェアを維持

### 家電・通信機器

- ・家電モーター用磁石
- ・携帯電話、スマートフォン製品用部品
- ・ウェアラブル製品用部品

#### 主な取り組み

- ・非接触充電市場への取り組み強化
- ・ASEAN地域への磁石材料拡販強化

### 環境・住生活

- ・鉛フリー材料（塩ビ安定剤、道路標示材）
- ・ダイオキシン発生低減触媒
- ・汚染土壌改良剤

#### 主な取り組み

- ・協業による塩ビ安定剤用ハイドロタルサイト事業強化
- ・燃焼触媒の市場領域拡大

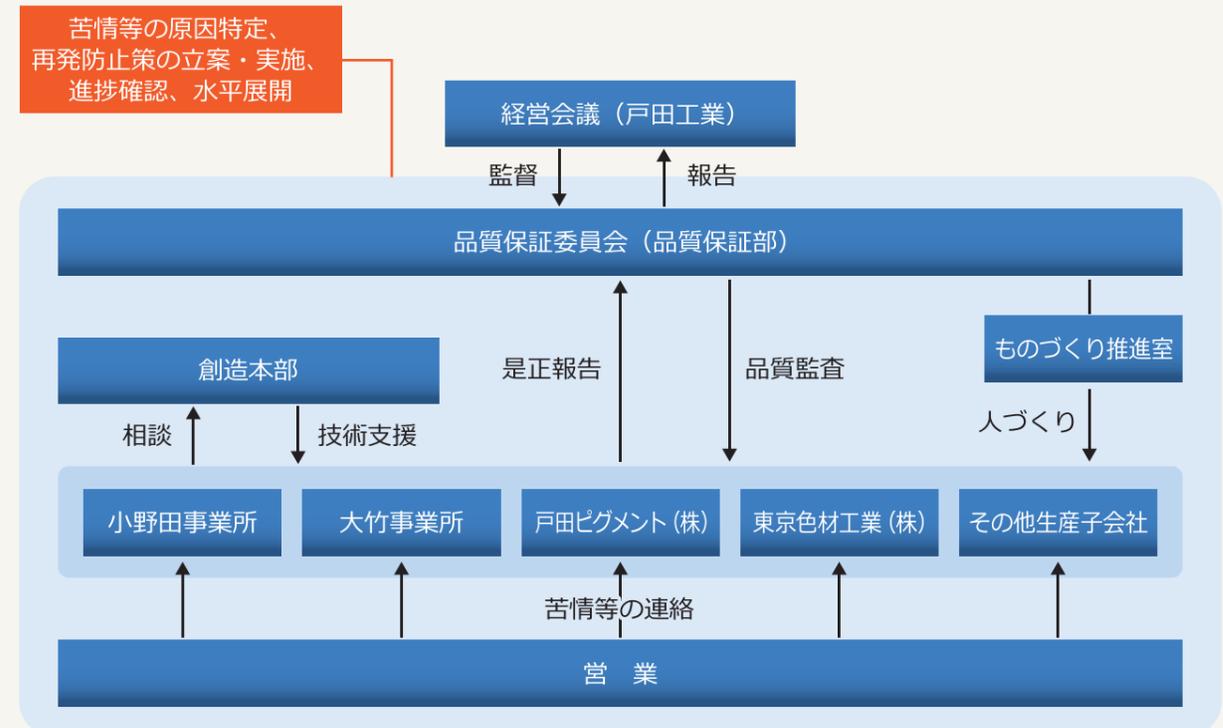
### 塗料

- ・事務機器用塗料
- ・建築・建材用塗料
- ・船底用防錆塗料

#### 主な取り組み

- ・国内外の生産・販売体制の拡充

〈品質保証体系図〉

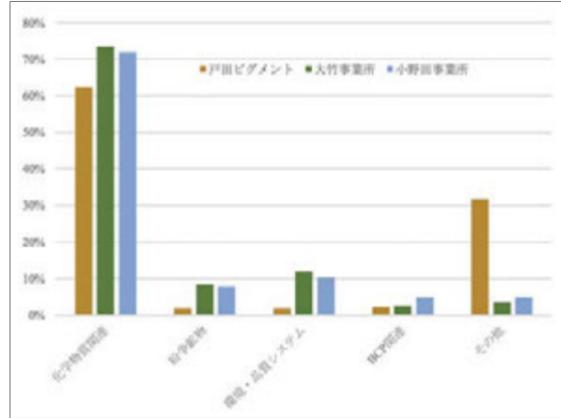


## 社会に向けて

### 2)お客様からの問合せへの対応状況

お客様からは、日々、製品やCSR等に関するお問合せをいただいております。戸田工業グループでは、これらのお問合せに対して、迅速かつ丁寧にご回答することを心がけています。その中で洗い出された課題については、担当する部署と協力し、解決に向けて取り組んでおります。

2016年度は、右表のとおり化学物質関連のお問合せを中心に、多数のお問合せに対応させていただきました。



〈事業所別お客様お問合せ内容内訳〉

### 3)小集団活動

戸田工業では各事業所において生産現場のあるべき姿を「安全なくして効率なし。品質なくして信頼なし。変革(改善)なくして発展なし。」のスローガンのもとで意識付けし、課題の解決に向け協力会社と協力して小集団活動を積極的に行っております。2016年度より、活動テーマの範囲を環境・安全にも広げ、この活動を通して現場の従業員の結束を強め、意識・知識を向上させるとともに、発表会により現場間のノウハウの共有につなげています。



〈大竹事業所小集団発表会の様子〉

### 4)現場を強くする人財の育成

ものづくり推進室では、「ものづくりは人づくり」という考えに基づき、職場の問題点に気づいて自ら考えて改善できる風土を推進しています。3ム(ムリ、ムラ、ムダ)をはじめとする職場の問題点を5S活動の実践により改善することで、SQCD (S (Safety) = 安全衛生の確保、Q (Quality) = 品質の確保、C (Cost) = 原価の確保、D (Delivery) = 工期・工程の確保) の改善・向上はもとより従業員の士気を高めて職場の活性化を目指しています。



〈消耗部品の整理・整頓と見える化〉

### 1)環境基本方針

戸田工業グループは、ISO14000 シリーズによる環境管理を行い、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であるにとらえ、自ら責任を持ち、全グループをあげてその活動に取り組みます。

#### 具体的な行動規範

- ①高い環境保全目標の設定と実現  
役員および従業員は、法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努める。
- ②革新的な環境技術開発の推進  
役員および従業員は、顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発を進める。
- ③全員参加での継続的改善  
役員および従業員は、全ての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染防止や、エネルギーおよび資源の有効活用について継続的改善を行う。
- ④環境に配慮した商品サービスの提供  
役員および従業員は、商品とサービスの提供にあたっては、調達方針・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努める。
- ⑤意識の向上と責任ある環境保全活動の推進  
役員および従業員は、一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識の向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進める。
- ⑥持続可能な社会の実現への貢献  
役員および従業員は、環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献する。
- ⑦コミュニケーションを通じた社会の信頼の獲得  
役員および従業員は、ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

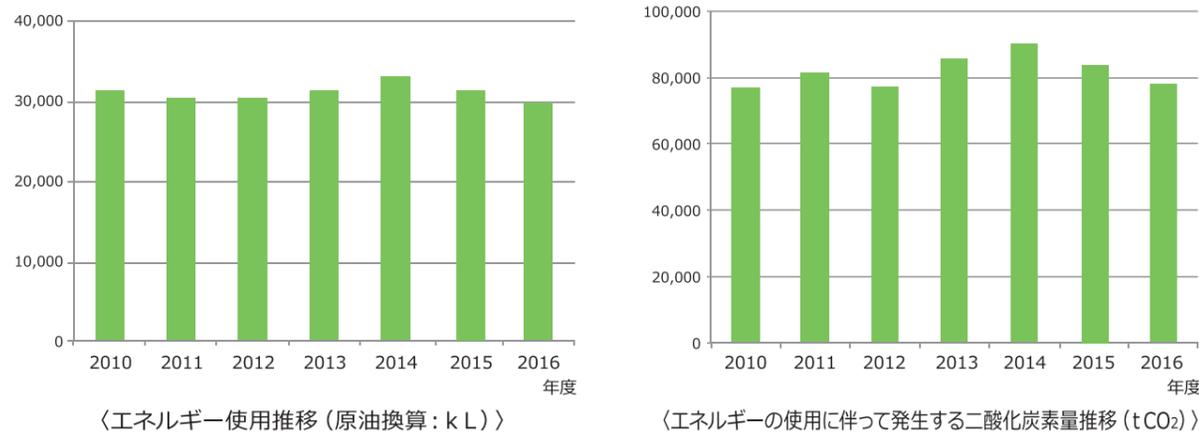
### 2)マネジメントシステムの導入状況

戸田工業グループでは、以下のマネジメントシステムを認証取得し、事業活動におけるPDCAサイクルを回しています。

ISO9001 ISO14001 OHSAS18001	ISO9001 ISO14001	ISO9001	
小野田事業所 大竹事業所	戸田ピグメント(株)	戸田磁鉄(深圳)有限公司 大竹創造センター：商品開発G	
	戸田フェライトコリア(株)		
	TODA ISU CORPORATION	ISO14001	
	戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司		
	戸田塑磁材料(浙江)有限公司		大竹創造センター
	浙江東磁戸田事業有限公司		
	浙江聯合顔料有限公司		
	Toda America Incorporated		

### 3) 温暖化対策

戸田工業グループでは、CSR・環境安全部が統括する環境委員会（国内グループ会社で構成）を中心に、ISO14001、省エネコンクール、省エネ提案等の活動を通してCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。2016年に経済産業省へ提出した定期報告（2015年度実績）では、省エネ評価『S』（優良事業者）の判定を受けています。2016年度からは、国際NGO:CDPの気候変動プログラムを通じて、取組み範囲をスコープ3（製品物流、通勤）まで広げました。全社一丸となりCO<sub>2</sub>排出量削減を推進します。



※戸田工業における省エネ法定定期報告より

### 4) 環境格付認定

戸田工業では、2013年度に、サステナブルな社会の実現に資する取組みとして、企業の環境経営を支援する日本政策投資銀行(DBJ)環境格付を受けています。



戸田工業グループは、EcoVadis社（フランス）のサステナビリティ（持続可能性）調査において、調査対象企業の中で上位30%に入る評価を獲得し、「シルバー」に格付けられました。なお、シルバーへの格付けは2016年から2回連続となります。

EcoVadis社は、110カ国、150業種に及ぶサプライヤー企業を対象に、「環境」、「社会（労働環境・人権等）」、「公正な事業活動」、「サプライチェーン」分野における企業の方針、施策、実績について評価を行っています。

### 5) グリーン調達活動、紛争鉱物に関して

戸田工業グループでは、調達方針の中で明確に「グリーン調達方針」および「紛争鉱物に関する基本方針」を定め、お取引先様へ新規取引先調査表等を発行し、皆様の協力も得ながら、環境や人権に配慮した調達活動を行っています。

新規取引先調査表・・・品質、環境、CSRの3分類で構成され、お取引先様におけるそれぞれの活動状況を調査、評価しています。

**グリーン調達方針：** 資源保護ならびに環境保全に留意した調達活動を行います。

#### 紛争鉱物に関する基本方針：

アフリカのコンゴ民主共和国およびその隣接国において、反政府勢力による重大な人権侵害や環境破壊が生じており、世界的に深刻な課題となっております。この地域で産出される鉱物（錫、タンタル、タングステン、金）の一部には、これらの勢力の資金源となっているもの（以下「紛争鉱物」と呼びます）があると言われています。

そうしたなか、米国で2010年に成立した「金融規制改革法」（ドッド・フランク法）において、米国上場企業は、「紛争鉱物」の製品への使用状況などについて、開示することを義務付けられました。

戸田工業グループは、こうした人権侵害や環境破壊に加担する意思はありません。戸田工業グループは継続的に、お客様やビジネスパートナーの皆様、業界団体等と連携を図りながら取組みを進めてまいります。

戸田工業グループは、お取引先様に対して電子業界CSRアライアンス(EICC)/Global e-Sustainability Initiative(GeSI)により確立された紛争フリー製錬所プログラム※に準拠した製錬所、または、その他の信頼のおける鉱物の採掘から加工、流通の経路を追跡するトレーサビリティプロジェクトにおいて紛争に加担していないと認定された製錬所からの調達をお願いしております。

※ 紛争フリー製錬所(CFS)プログラム：製錬所が扱う鉱物が紛争に加担していない調達源であることを第三者が認定するプログラム。



## 6) BCP (Business Continuity Plan) / 防災活動

### ①BCP

戸田工業グループでは、国内外の事業所を含む全社レベルでのBCPの取り組み方向性について、事業継続基本方針を策定しています。

#### <事業継続基本方針>

当社グループは、大規模地震や水害等、何らかの理由により業務の遂行に支障が生じた場合（以下「非常時」という）に、お客様や従業員をはじめとする生命の安全確保を前提とし、事業資産の損害を最小限にとどめ、中核となる事業の継続、早期復旧を行うことを事業継続基本方針とします。

この方針を実現するため、平素からの積極的な事業継続への取り組みおよび継続的な維持・改善に資するための推進体制を確立するとともに、グループ会社と緊密に連携し、被害軽減のための事前対策や重要事業の早期再開のための代替リソースの確保要領、被災時や復旧時における対応組織や具体的な対策ならびに復旧の優先順序などを予め定めておくことを重視します。こうした考えに基づき、行動指針を定めています。

#### <平常時における行動指針>

- 推進体制の確立、事業影響度の評価と対策の実施、手順書等の作成と訓練の実施
- BCP実効性の評価と見直し、BCP文化の醸成

#### <非常時における行動指針>

- 人命安全確保、安否確認、近隣（地域社会）対応、事業の早期復旧

### ②緊急時対応訓練

各事業所において、所轄の消防署のご協力のもと、事業所内全従業員で緊急時対応訓練を毎年実施しています。



〈大竹事業所 初期消火活動〉



〈小野田事業所 初期消火活動〉



〈戸田ピグメント 初期消火活動〉



〈小野田事業所 負傷者搬送〉



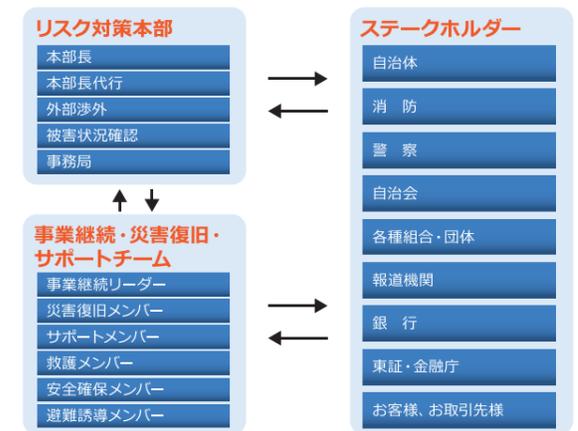
〈大竹事業所 負傷者の応急手当〉



〈小野田事業所 避難誘導〉

### ③BCP対応組織

社長を本部長とした対策本部と事業継続・災害復旧・サポートチームにより構成され、人命安全確保、安否確認、地域社会対応、サプライチェーン対応、事業の早期復旧に取り組みます。



### ④BCPプロセスフロー

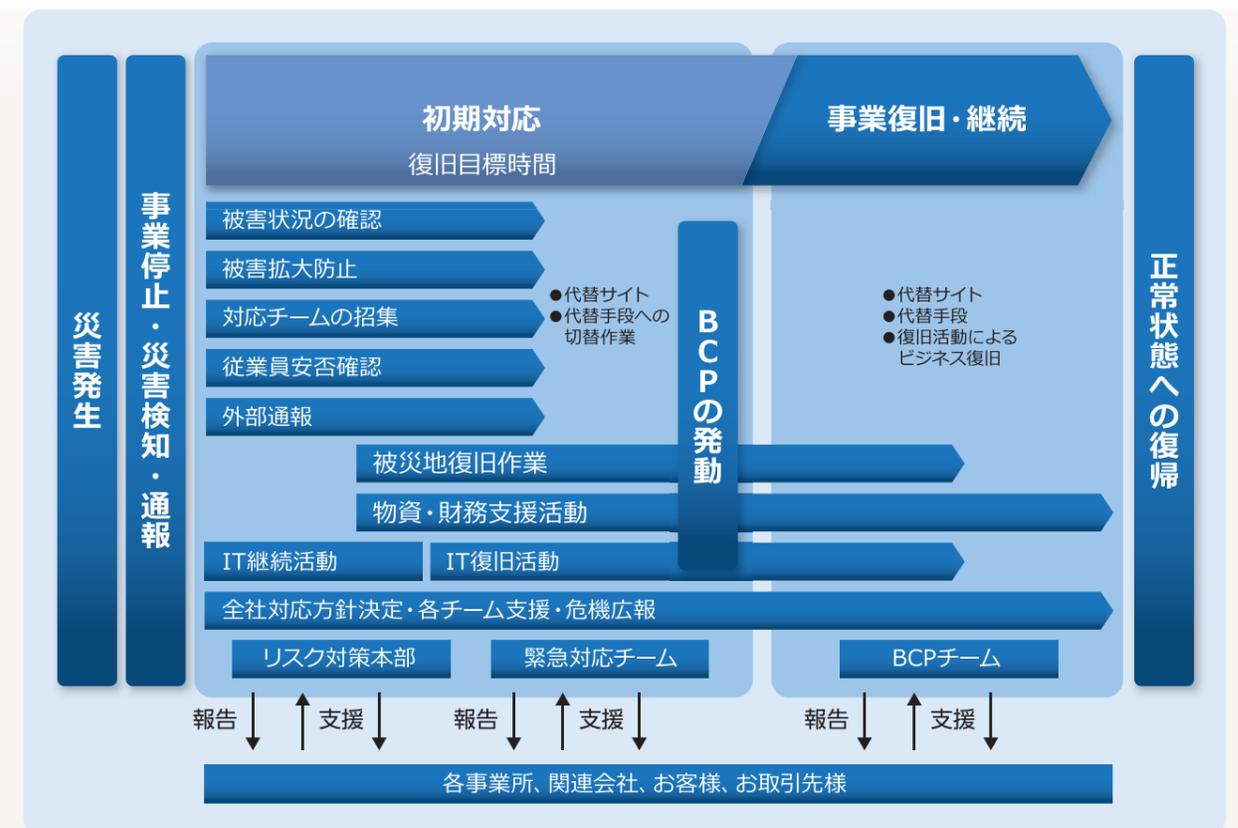
本部、各事業所でBCPを策定し、非常時に備えています。BCPは定期的にチェック更新されます。非常時には、お客様や従業員をはじめとする人命の安全確保、安否確認を行い、二次災害の防止対策を実施します。

#### ●近隣（地域社会）対応

情報交換や復旧活動の場の提供など近隣との各種やり取りを実施します。

#### ●事業の早期復旧

予め定めた計画に基づき、事業継続行動を実施します。



〈BCPプロセスフロー〉

## 7) 社会や地域とのかかわり

### ①理科出前授業・イベント

戸田工業では、2008年度から、広島県内の小中学生を対象とした工場見学会や理科出前授業・イベントを実施しています。工場見学会では、フェライト磁性粉やそれを用いたフェライトシートの製造工程などを見学してもらっています。また、理科出前授業やイベントにおいては、磁界の形・向きや素材の違う永久磁石に触ったり、永久磁石、エナメル線コイルと乾電池を使った簡単手作りモーターを作ったりすることで、永久磁石や電磁石の働きを体験してもらっています。さらに身近な生活で役立っている磁石を使った製品についても紹介しています。これらの活動により、より多くの子もたちが理科に興味を持って、将来の日本の科学技術の担い手になってくれることを願っています。



〈理科イベントの様子〉



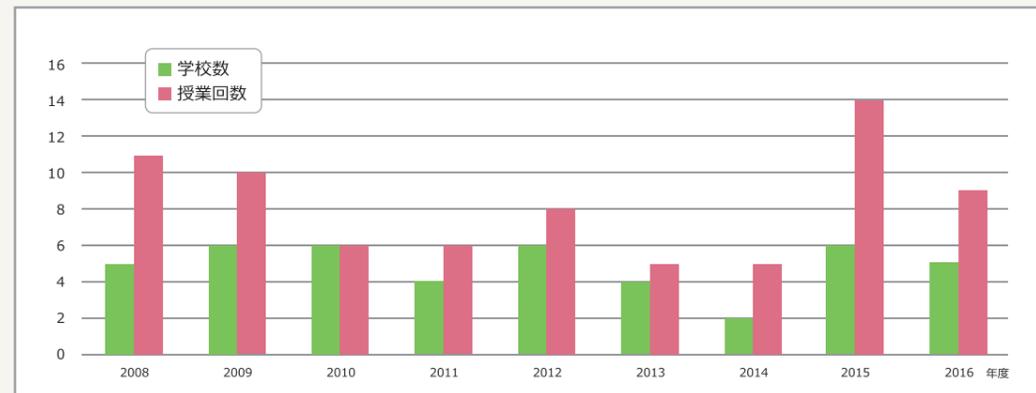
〈出前授業の様子〉



〈工場見学の様子①〉



〈工場見学の様子②〉



〈出前授業実施件数〉

### ②夢化学21

広島大学オープンキャンパス(2016年8月18日~19日)において、広島大学工学部第三類(化学・バイオ・プロセス系)で、広島大学工学部化学系コースの受験を考えている高校生を対象とした「夢化学21」が開催されました。中国地区化学工学懇話会会員企業が“化学の夢”を醸し出すような先端素材や技術、おもしろい物質等の展示を行いました。戸田工業も毎年参加させていただき、高校生に化学のおもしろさ、不思議さ、夢を伝えています。

#### 出展内容

- ① 回り続ける独楽
- ② サッカー電子チケット、おサイフケータイ用アンテナ(フェライトICタグ)
- ③ 熱くない?うるさくない?コーティング(断熱、防音塗料)
- ④ 化粧品(口紅)サンプル(ナノ粒子の応用)
- ⑤ スマホやパソコン向けのリチウムイオン電池材料



### ③ドナーバンク支援 — 『ドナーバンク支援自販機』導入—

医学、医療の進歩の中で臓器治療のひとつとして臓器移植がありますが、臓器提供数は伸び悩んでいます。この移植治療への普及啓発、推進活動への寄付ができる自動販売機として、大竹事業所、大竹創造センターで『ドナーバンク支援自販機』を3台設置しました。この活動をグループ全体へ展開する中で、ドナーバンクへの支援の輪を少しでも広げたいと考えています。



## 8) 生物多様性への取り組み

戸田工業グループは、地球上の生物多様性を保全するために、以下の具体的な行動指針を定め、事業活動を推進しています。

また、地域における生物多様性の保全に向けた取り組みにも、川の清掃やイベントボランティアなどに積極的に参加しています。



### 戸田工業に出現した「生物の生息空間」(ビオトープ)

大竹事業所の、瀬戸内海に面した堤防と敷地との境に雨水排水を行う目的の小川が存在しています。この小川の一部にはイネ科のヨシ草が生い茂った箇所があり、ここを隠れ家とするように5cm程度の小魚の群れや、流れの緩やかな場所にはアメンボも生息しています。また、春にはカルガモ親子が訪れ、子育てを行う絶好の環境となっています。



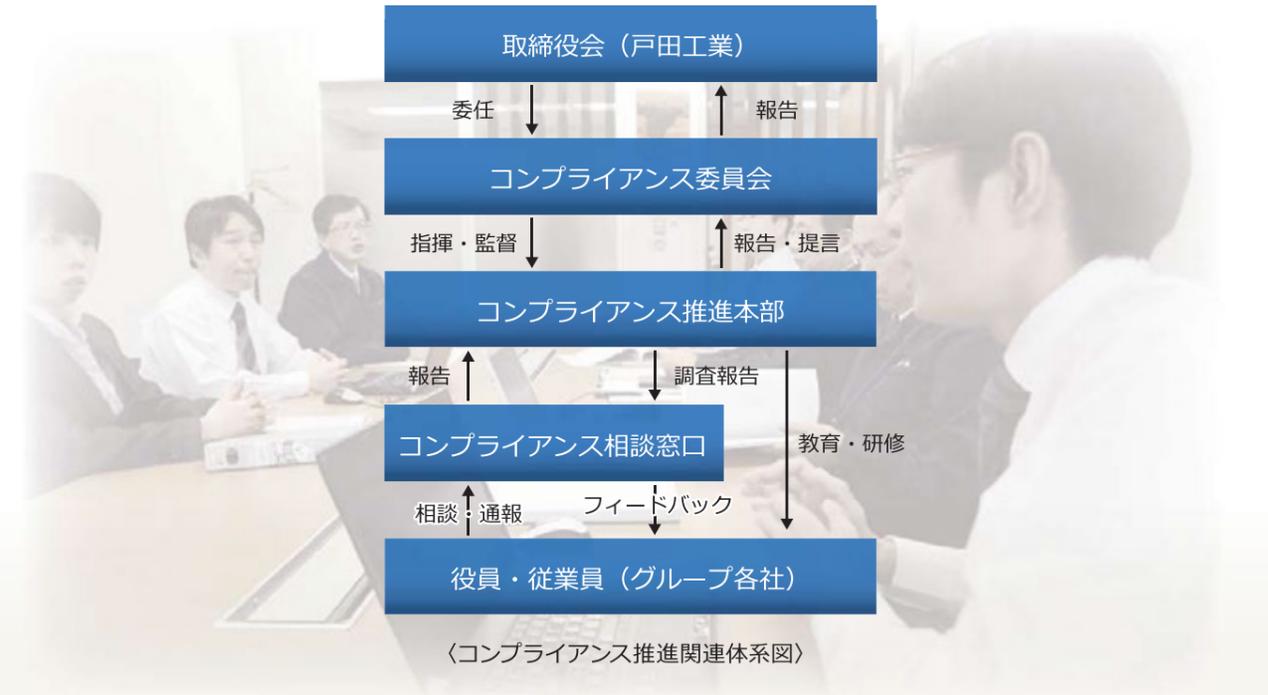
## 生物多様性行動指針

1. 生物多様性の保全を企業における重要課題のひとつと認識し、環境経営に取り組む。
2. 原材料調達方針を含む事業活動が生物多様性に与える影響を把握し、その影響の継続的な削減に努める。
3. 自らの事業活動はもとより、サプライチェーンとも連携した省資源、省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を、継続的に推進する。
4. 生物多様性保全に寄与する製品の製造、技術開発、生産プロセス革新を推進する。
5. お客様、仕入先様、他の企業、NGO、教育・研究機関、地方自治体等とのコミュニケーションの拡充、連携・協力を努める。
6. 生物多様性の保全には従業員一人ひとりの活動が重要であることから、従業員への教育を通して、豊かな生態系の保護に対する認識を高める。

## 9) コンプライアンス

戸田工業グループでは、役員・従業員一人ひとりが法令や社会規範、社内規程などを遵守した行動ができるよう、グループ会社全体に適用される「コンプライアンス行動規範」および「コンプライアンス推進規程」を定め、コンプライアンスの推進・徹底に努めています。

「コンプライアンス推進規程」に定められた体系図は以下の図のとおりで、役員・従業員からの意見や情報が汲み取られるとともに、教育・研修を実施することで、コンプライアンス経営を実効あるものとしています。



### ①e-ラーニング

戸田工業では、2017年3月に、コンプライアンス教育の一環として「コンプライアンスに関するe-ラーニング」を実施しました。このe-ラーニングの目的は、各自がコンプライアンスに関する基本的な知識を身に付け、コンプライアンス違反となる言動をとらないように、また、コンプライアンス違反が発生しないように、今後の業務に活かしていただくことでした。

今回は10問構成で、満点で修了するまで繰り返す方式のものでした。2週間の開講期間に戸田工業従業員386名全員が修了し、各自のコンプライアンスに関する理解が深まったものと思います。

### ②社内教育

戸田工業では毎年、新入社員研修や新任役職者研修において、コンプライアンスや情報セキュリティに関する講義の時間を設け、それらの重要性について学ぶとともに、理解を深める取り組みを継続しています。

また、コンプライアンスに関するホットな話題や情報を掲載した「コンプライアンス通信」を隔月で発行し、啓発を図っています。

コンプライアンスや情報セキュリティに関する教育は、繰り返し実施すること、各人が我が事と意識して取り組むことが肝要です。今後とも、社内教育やe-ラーニングを継続して実施していく予定です。

## 従業員に向けて

### 1) 働きやすさ

#### ①次世代育成支援・女性活躍推進活動

戸田工業では、次世代育成支援対策推進法および女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の規定に基づき、次世代育成支援および女性活躍推進に関して、次のような行動計画を策定し、計画に沿った活動を進めております。

#### (1)次世代育成支援行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

##### ◆目標1

計画期間中に、職場における育児に関する意識を高め、育児を行う従業員に対し、理解と協力が得られる風土・体制とする。

##### 【目標達成のための対策】

育児に関する諸制度について、イントラネット等を通じ定期的に周知を図るとともに、管理職研修等においても必要な教育を継続実施する。

##### ◆目標3

計画期間中に、社員の総実労働時間を短縮する(所定外労働時間の削減、年次有給休暇消化促進、年次有給休暇の時間単位利用の適用拡大等)。

##### 【目標達成のための対策】

年次有給休暇の使用実績 70%以上の維持および取得促進のための施策を検討する。

##### ◆目標2

計画期間中に、育児休業の取得状況を以下のとおりとする。また勤務時間短縮の適用期間を広げるとともに、勤務時間短縮、繰上げ、繰下げ措置の取得を奨励する。

※男性：取得者1人以上にする。

※女性：取得率100%

復帰率100%を維持する。

##### 【目標達成のための対策】

- ・全従業員に、仕事と家庭の両立に関する啓蒙を継続して行う。
- ・育児休業法、育児休業規程を周知し、特に男性の利用を促す。

##### ◆目標4

子どもたちに、理科や化学のおもしろさを実感してもらう。

##### 【目標達成のための対策】

- ・小・中・高校生対象のイベントへの出展を通じて、理科や化学への理解を促す。
- ・小学生を対象に学校教育(出張授業等)への協力を行う。

#### (2)女性活躍推進行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

##### ◆目標◆

新卒採用者に占める女性比率を30%以上とする。

##### 【目標達成のための対策】

採用選考基準やその運用の見直しを行うとともに、就業後の仕事と家庭の両立支援策の拡充を行い、育児休業の取得率等の情報を開示することによって、女性応募者数を増やす。

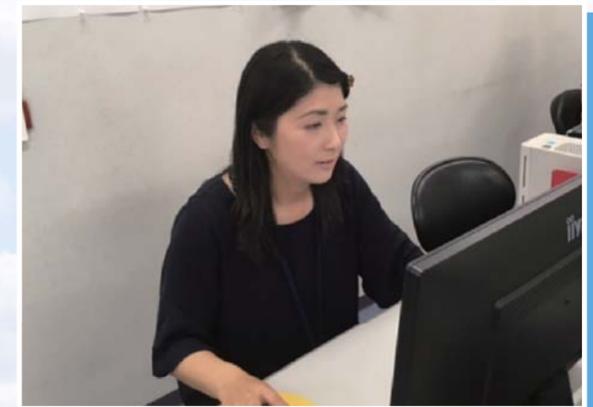
### ②従業員インタビュー

#### 創造本部 知財特許グループ 平田 香織さん

現在、小学5年生と1年生の子どもがいます。それぞれ産休・育休制度を利用し、二人目の育休明けから現在まで短時間勤務制度を利用しています。

これまで社内制度を活用する中で一番大きかったのは短時間勤務対象者を拡大していただいたことです。世間でも「小1の壁」問題が取り上げられることがありますが、短時間勤務対象者を拡大していただいたことで、これまで同様に仕事と家庭・子育ての両立を図りやすくなったと感謝しています。二人とも小学校に上がったことで病気や行事以外にも急な休校や学級閉鎖等で、子どもたちの預かり場がない日が生じることがあります。そのような場合にも部内の皆様のご理解とご協力と安心して働ける職場環境のおかげで、今日までよいバランスを保ちながら、両立し続けることができていると感じています。

今後とも皆様のご理解とご協力をいただきながら業務に邁進していきたいと思っています。



#### 経営管理本部 人事総務部人事労務グループ 片桐 悠さん

入社して1年が経ちました。新入社員研修では、小野田事業所、大竹事業所、創造センター、東京オフィス、戸田ピグメントを半年かけて回り、ものづくりや開発、営業活動の基礎を教わりました。私は現在、人事総務部に所属し、採用や社内教育など会社の「人」に関する仕事を行っていますが、学生や従業員の方とのやりとりの場面で、研修中の経験や学びが大いに活かされています。

優先順位をつけ、周りを見ながら手際よく仕事を進めていくことはまだまだ苦手ですが、入社2年目とはいえ裁量の大きな仕事を任せてもらい、変化のある毎日にやりがいを感じていますし、困ったときに遠慮なく相談でき、見習いたい先輩方がいらっしゃることは何よりも心強いです。自分の頑張り次第でいくらでも成長できる環境に感謝しながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。



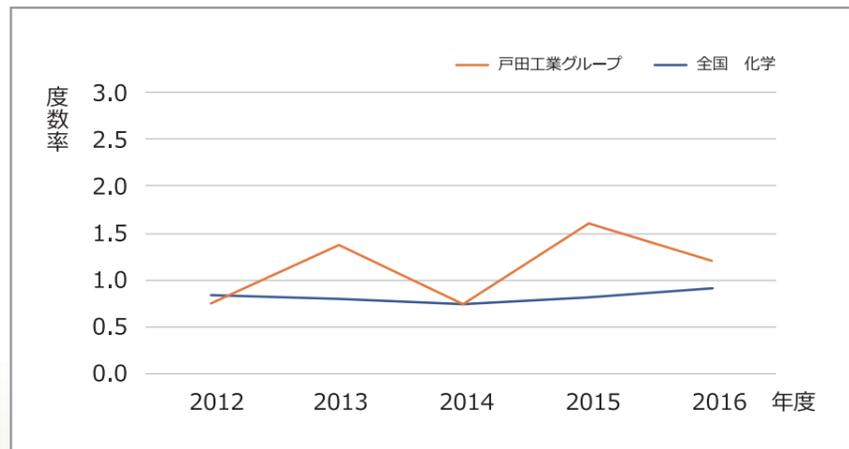
## 2) 安全・衛生活動

戸田工業グループでは、2017年4月に以下のとおり組織を見直し、グループ全体の労働安全衛生への取り組み体制を強化しました。

- ・グループ全体を対象にした中央総括安全衛生委員会を新設
- ・本社：CSR・環境安全部に安全推進センターを新設

### ①労働災害に関するデータ

2016年度の休業災害は、グループ従業員は0件でしたが、場内の協力会社従業員で1件、場内作業を依頼したシルバー派遣労働者1件の災害が発生しました。各事業所の安全衛生委員会と連携して、労働災害ゼロを目標に引き続き活動を展開してまいります。



〈戸田工業グループ 休業災害度数率の推移〉

※度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表すもの。

### ②安全活動

小野田事業所と大竹事業所では、毎年、全国安全週間を前に「安全大会」を開催しています。小野田事業所では宇部労働基準監督署、大竹事業所では廿日市労働基準監督署より講師をお招きして、災害の動向、災害の防止計画について従業員と共に拝聴する場を設け安全意識の高揚を図り、また、前年度の災害実績を再確認し当年度の目標を設定する場として活動を行っています。



〈小野田事業所安全大会の様子〉



〈大竹事業所安全大会の様子〉

### ③救命講習訓練

戸田ピグメントでは、いざというときに慌てないように、岡山市消防局建部出張所より講師をお招きして、人工呼吸・AEDを使用する蘇生処置や、心臓マッサージの訓練を開催しています。



〈戸田ピグメントでの救命講習訓練の様子〉

### ④安全・ものづくり道場での活動

戸田工業は2014年10月、小野田事業所に“現場の力を強くできる人財育成”を目的とした施設である「安全・ものづくり道場」を設立しました。「見て・触れて・考える」体感型安全教育を、戸田工業グループ従業員および協力会社の方を対象に開催しており、2016年度は計28回、275名が受講し、累計で対象者の70%が受講しています。

安全体感研修は座学・道場の二部で構成され、座学では安全の基本である「5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）」について参加型のグループワークを通じ学び考え、道場では座学で学んだことを実践するとともに、危険に対する感受性を高めることができるような仕掛けを体感します。



〈安全・ものづくり道場での研修の様子〉

2016年度は、小野田事業所を拠点とした活動を更に広げ、戸田工業で働くすべての方の雇用形態に柔軟に対応し、各拠点で安全教育の機会を提供するため、「安全出前研修」をスタートしました。出前研修では、仕掛け設備による危険模擬体験の代わりに、座学で学んだ5Sの本質を深めるために手作り教材による改善体験トレーニングを取り入れています。これまで国内事業所3拠点、約70名が受講し、安全体感研修の受講者同様、一人ひとりの意識改革や学んだことを自職場へ持ち帰り、身近な問題点から改善する活動を支援しています。

戸田工業は、設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「ものづくり企業」としての経営基盤を確立させる その礎（いしずえ）は“人”であり、一人ひとりが働き甲斐を感じて職場を活性化し、自律力と現場力を向上することが大切であると考えています。

2017年度は本活動をさらに深化させて、全従業員の安全意識を高める活動に加えて、ものづくりに大切な品質を考える人づくりに取り組んでまいります。

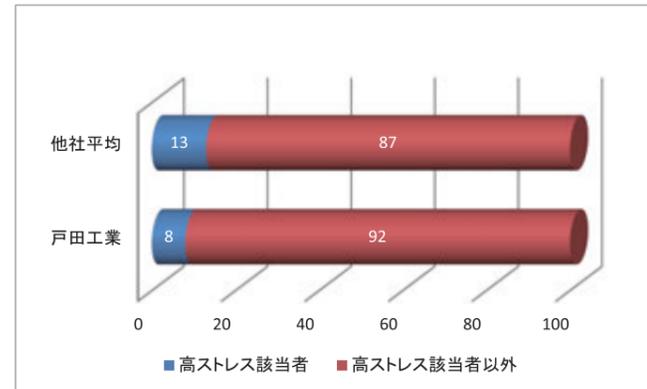
### 3) 健康増進に向けた取組み

#### ①従業員の健康保持・増進

戸田工業では、労働安全衛生法に基づき、従業員の雇入時と年1回以上の一般健康診断および特殊健康診断を実施しております。毎年、得られた健康診断結果を分析し、各事業所の安全衛生委員会等における健康維持・増進活動に反映させております。

#### ②ストレスチェック実施状況

労働安全衛生法の改正に伴い、戸田工業では、2016年4月1日付でストレスチェック制度実施規程を制定し、全従業員を対象に年一回ストレスチェックを実施しております。2017年5月の実施結果では、高ストレス該当者の比率は全受検者の8%となり、ストレスチェック実施委託会社（受検者40万人）の平均比率13%と比べると低い値となりました。高ストレス該当者に対しては、産業医との面談を勧めるとともに、職場環境の改善やメンタルヘルス研修を実施しております。



〈2017年度ストレスチェック実施結果〉

### 4) クラブ活動

戸田工業では、福利厚生の一環として、社員同士の親睦とつながり、心と体の健康づくりを主な目的としたクラブ活動の活動費の一部を援助しています。2016年度に申請登録されたクラブは15団体あります。そのうち、創造本部の従業員を中心に活動している2つのクラブを紹介します。

#### 【卓球部】

卓球部の活動は主にお昼の休憩時間に行っています。人が多い時はダブルスを行います。組み合わせによっては予想外な試合展開になるのがとても楽しいです。初心者、部員でない方も気軽に参加できますので、ご興味のある方は大竹事業所の講堂に遊びに来てください。



#### 【SFC (釣り)】

釣り倶楽部は、西はアジの聖地上関から東はアコウのメッカ飛島諸島、そして北はアオリイカの本場浜田とフルシーズン、アラウンド対応で釣行に出撃しています。もちろん行く先々での美味しい物を食べることも忘れず、意気込みだけはいつも太公望です。



### 5) 研修制度

#### ①新入社員研修

教育制度の中でも新入社員研修には特に力を入れています。技術系・事務系関係なく、同じ研修を一緒に取り組んでいきます。

#### 導入研修 (4月)

生活のリズム、気持ちを学生から社会人へと切り換え、仕事人としての基本を学ぶための研修です。

- 禅寺研修(他社新入社員らとともにやる気持ち、生活リズムの切り替え)
- ビジネス研修(マナーをはじめ、「心技一体」を実践できる「仕事人」の基本を修得)
- 社内研修(会社組織、製品についての講義や社内制度の学習、工場見学他)



〈禅寺での研修の様子〉



〈本社での研修の様子〉

#### 現場研修 (5月～9月の5ヶ月)

長期間にわたり職場体験をすることにより、社風、現場を肌で感じ、さらには先輩社員らと直に交流を行う研修です。製造事業所・開発センター・営業所で、ものづくりや開発、営業活動の基礎を学んで、仕事を通じて実務知識を身に付けます。

#### 正式配属決定 (10月)

配属は、各人の希望や適性、社内のニーズを照らし合わせて決定します。その後、社内ジョブローテーションにより、様々な経験を積み、成長していただきます。

- ②OJT研修: 新入社員OJTリーダー研修の実施、安全衛生・品質管理教育の実施、国内大学・研究機関への派遣等
- ③OFF-JT研修: 階層別研修、次期経営幹部候補選抜研修、重点課題研修、職種別研修、メンタルヘルス研修等
- ④自己啓発: 通信教育援助制度の実施(各種コースの中から各人が自由に講座を選択。優秀点で卒業すれば、受講料免除。)





©2017 S.F.C

戸田工業株式会社は、  
サンフレッチェ広島を応援しています！



**SANFRECCE**  
HIROSHIMA FC



©1992 SANFRECCE HIROSHIMA CORPORATION  
©1992 S.F.C